

2021年3月20日(土)

老球の細道600号

不愉快な審判へのクレーム

会津バスケットボール協会 室井 富仁

先週、猪苗代カメリーナで行われたB2リーグ第25節の福島ファイヤーボンズ対佐賀バルナーズの初日のゲームは、Bリーグ史上初の無観客(コロナ感染防止不備のため)、そして両チームヘッドコーチ出場停止でヘッドコーチ不在の試合であった。運よく(?)私はこの歴史的な試合のゲームダイレクターをすることになった。

両チームのヘッドコーチ不在は前のゲームにおいて審判へのクレームなどでテクニカルファール2回の失格退場となったためである。Bリーグ規定でヘッドコーチに罰金並びに1試合出場停止の処分が課された。

両チームのヘッドコーチは審判に対して非常に激しくクレームやアピールすることで有名である。処分が解除された2日目のゲームは無観客だったせいもあり、レフリーへの執拗なクレームやアピールが周辺に聞こえるよう繰り返されていた。特に佐賀のスペイン人コーチは激しかった。さすがに「オラ!オラ!」のスペイン人である。

試合中にBGMを担当しているDJの方が「バスケットのコーチはなぜあんなに審判に抗議するのですか?野球だったら一発退場ですよ」などとMCの人と話をしているのが耳に入った。私も以前から気になっていたのだが、審判の判定にあまりにも敏感になりすぎる。NBAや国内トップリーグの選手やコーチが、審判の判定に激しくクレームやアピールをすれば、ジュニアやミニレベルの選手もコーチも見習って真似する人たちが現れるだろう。スポーツマンシップとは「審判へのリスペクト」という言葉が机上の空論になってしまう。

こうした問題はBリーグだけではなくJリーグでも話題になっている。Jリーグは開幕に合わせて異例の試みで「必ず見るように」と9分の映像を各クラブに配布した。その内容は、退場もしくは警告に値する暴力的なプレイだけでなく、審判への執拗な抗議の映像もある。「どこを見てんだよ、レフリー」「今のなんでファールじゃねえんだよ」とか、判定に対してピッチ脇から怒鳴り散らしたり、ペットボトルを地面に投げつけたりする監督の姿もあった。(付記:バスケットボール界ではかつて、米国の天才コーチと言われたボビー・ナイトはベンチの椅子をコートに投げ入れている)

今コロナの影響で無観客や観客数の制限で選手やコーチの声が非常によく聞こえる。そんな折、汚い言葉を聞きたくない、審判の判定に抗議するのは見苦しいというファンの声がリーグに届く。Jリーグの役員は言う。「激しさと汚さ、狡さ、異議と暴言は違う。リーグ全体の価値を上げるために踏み込んだ」。バスケットボールのBリーグも同じだろう。

試合は相手チームとの戦いである。審判と試合をしている選手、コーチをよく見かける。抗議することに心を奪われ自分を見失う。特にコーチは最後まで審判の判定に気を散らすことなくベンチワークに集中しなければならない。落ち着いた冷静な采配が勝利を誘い込む。感情をあらわにするのは勝利の瞬間だけ。それがプロフェッショナルの仕事である。